

令和六年三月三十日 眞実の光会館 内参道完成 清めの儀

神 示

神の「救世の道」を教えよう

昭和二十一年十一月十五日

一人の御子に 神魂を宿すことから始まる

その神子が 直使供丸姫

まず 使者供丸齋が 神の實在を社会に示し

直使供丸姫が 「希望の光」を世に開き

今日 使者供丸光が

「希望の光」を歩む 心の気付きを人々に示している

神の手の中 「救世の道」を信者は歩み

いよいよ 「希望の光」を 自ら通す人々が増え

神へ導く参道と 仏へ導く参道が 姿を現したのである

真つすぐと 神・仏へつながる参道を歩むことで

信者の「心の道」も高くなる

「希望の光」を真つすぐ歩む 神魂へつながる心の姿を

今 信者は体験する

—— 「道」を守りて 「光」が通る ——

気付きの心が深まるほどに 信者は「悟り」を深め

「希望の光」のその先に 「眞実の光」が見えてくる